



3年生環境科学科「ディベート本戦」3戦目！

環境科学科3年生「SS探究科学Ⅲ」の授業では毎年、**ディベートの成果発表会（ディベート本戦）**を行っています。ディベートは、ある論題（テーマ）について、肯定派と否定派が議論を繰り広げ、その議論を聞いていた第三者が審判となり、どちらがより説得力があるかを判定します。ディベート学習を通して、論題背景や発言内容等の理解力、発言内容を客観的に分析する力（批判的思考力）、自らの考えを的確に効率よく伝える伝達力等が身に付きます。今年度は、『日本は救急車の利用を有料化すべきである。是か非か。』、『日本は積極的安楽死を法的に認めるべきである。是か非か。』、『日本は防犯カメラによる顔認証システムを法制化すべきである。是か非か。』の3つの論題でディベートに取り組んでいます。

10月30日（月）、『**日本は防犯カメラによる顔認証システムを法制化すべきである。是か非か。**』についてディベートの本戦を行いました。審判には1年生環境科学科の生徒が参加しました。高校生のディベートではあまり扱われていない論題で、肯定側・否定側ともに均衡した戦いを繰り広げていましたが、最終は肯定側が勝利しました。



以下、審判に参加してくれた1年生環境科学科の感想です。

『相手の論を崩すためには相手の主張を一つずつ確実につぶしていくのが大事なのだと思います。』『中学校の時にディベートをしたけれど、反駁がうまくいかなかったので、あそこまで根拠を持って反駁を考えていたのがすごいと思った。』『とてもレベルが高いディベートだった。難しい内容なのにしっかりとまとまった意見ですごいと思った。』『昨年度、高3生のディベートを聞いたときより、とても高度なものだった。』